へ13
3730
31
へ13
3730
32

へ13
3730
31

へ13
3730
31

柳亭種秀作　錦昂

其由緣記　十六　上冊

梅蝶樓國貞畫　宮庫

舟子多く居る船山ふ到と云諺有其とも些異ども俵紫正續の一大長編桐壺の口切てより彼茶所の宇治十帖まで故翁のまゝ(で立さわされ)ば塩瀬のフクサ紅藍と江戸染ふせ一本色有べくれふ藤袴と縫さして絶一主緒結術な く槙柱の麓木造と植木店辺ふ精ぐいふ名のと一筆とふ称ど作者替まふ趣も寳り若菜ふ今戸の土ふ移しと青々と繁栄ると破菅笠の鳥怕一ど預申て黄金のゆうと花の咲迫生立ふ夢のあらぬう辻褄合ま蝶々まづこの く蜂籠の掻頭ぐ前髪かき〳〵癡痛く思ま方や多ろむ嗟筭まば一種のさとふ四五人も作者が交替り加之故ありて石高な瀬ふ船衝ふ一も今順風の日和えれべ入船頭の怠慢ぐ漕ふこれば兎道河の辺へ迄ろ著ざるん山ふ到とも朝日の名伯とば復已時ふ立回り日出の合巻とりてまされとも事も書く聖技も出れ

庚申年孟春發市

柳亭種秀謹述

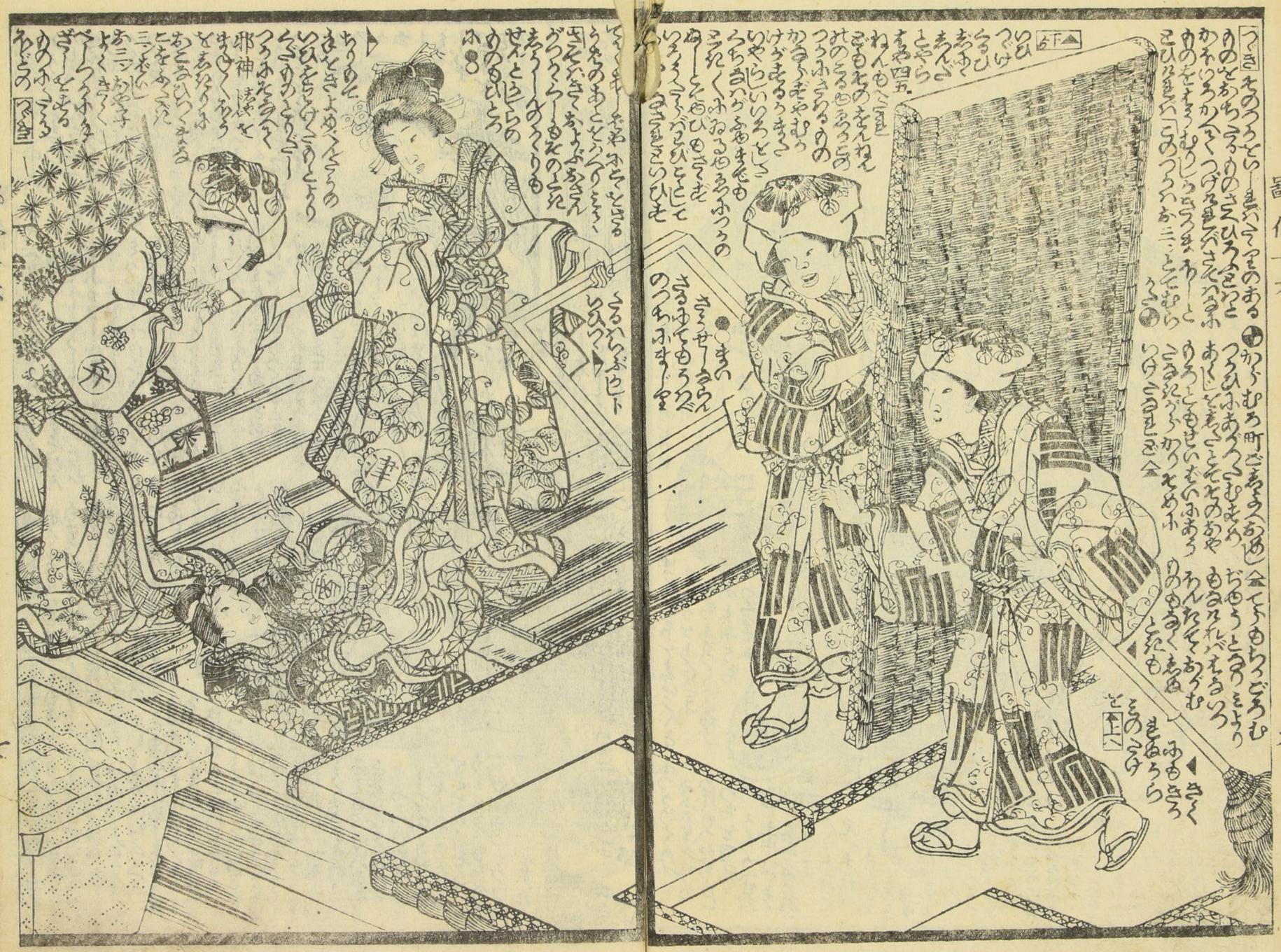
寶樹院妙華尼公
俗称藤之方

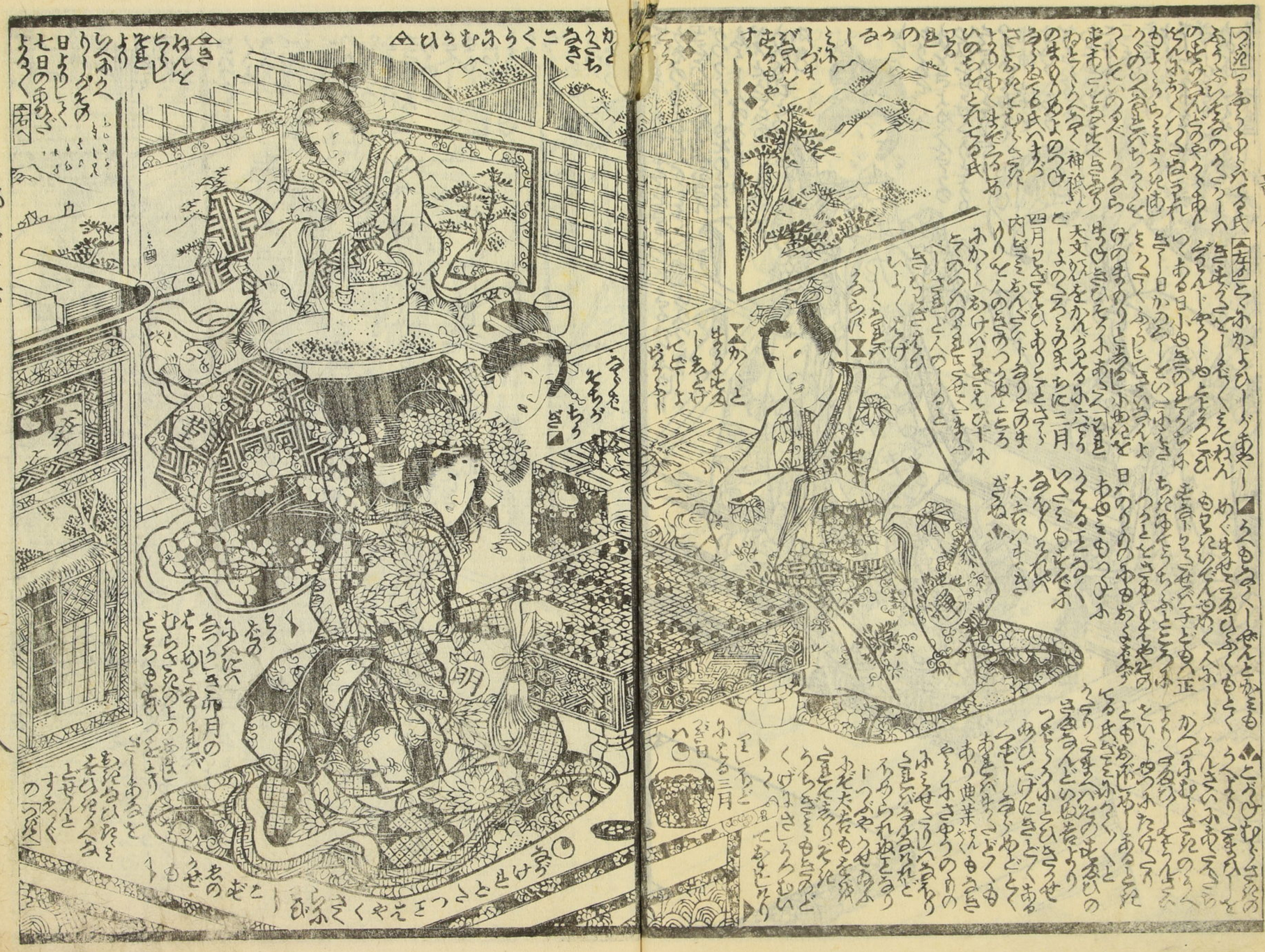
大原素太夫女
於三寛鬼
豊国画

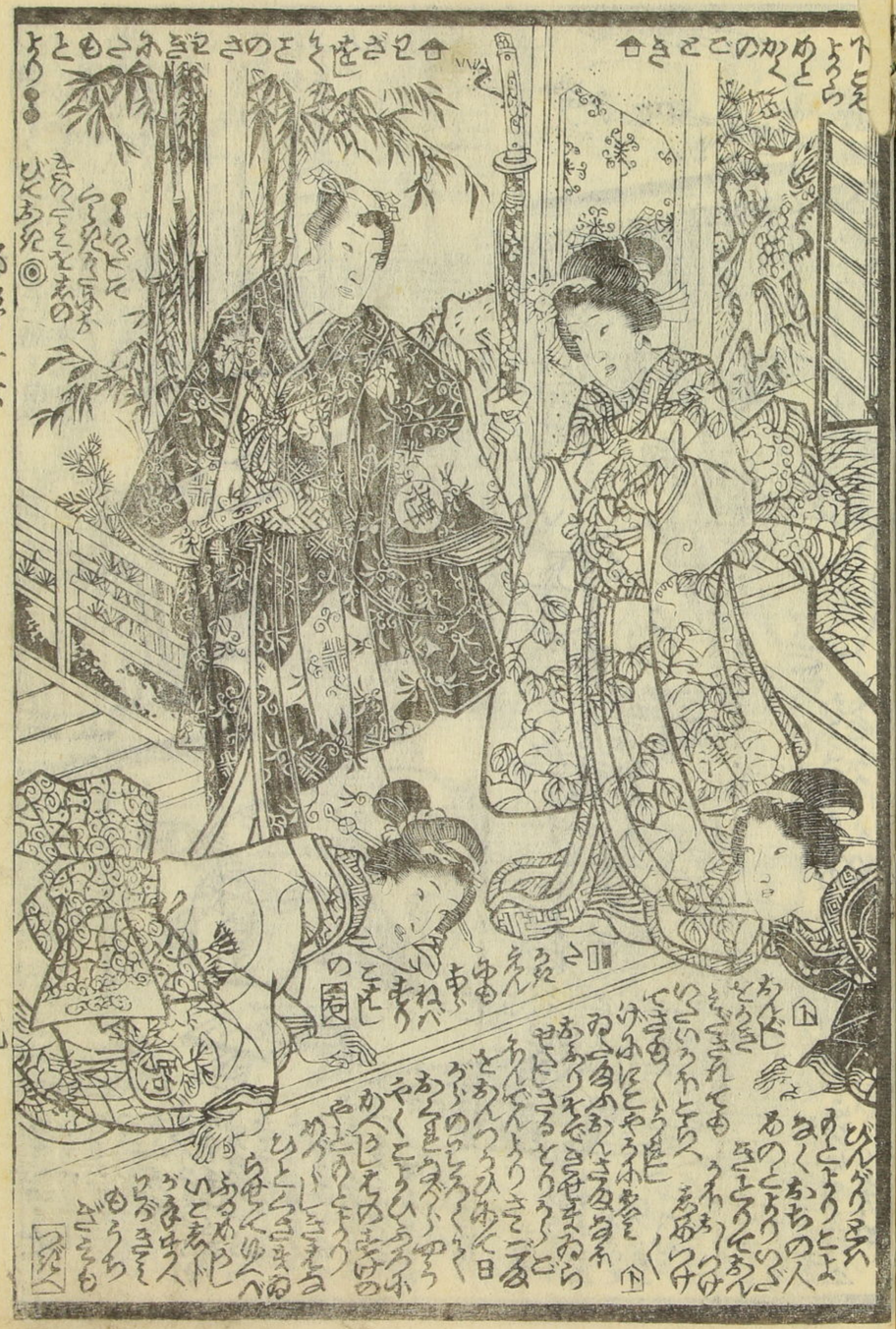
傳婦小揚

雛の節
本文の結構は
薄茶の一段
曲尽団欒
六條御所
輝氏公
三世姫

前将軍義植公
御室磯菜方
桂河久遠寺比丘
阿古木の墓詣の所
正編第廿七の十七
のうらの画と
あんえらくべしの
発達を考へべし







國貞画
種秀作

へ13
3730
32

門へ13
3730
32

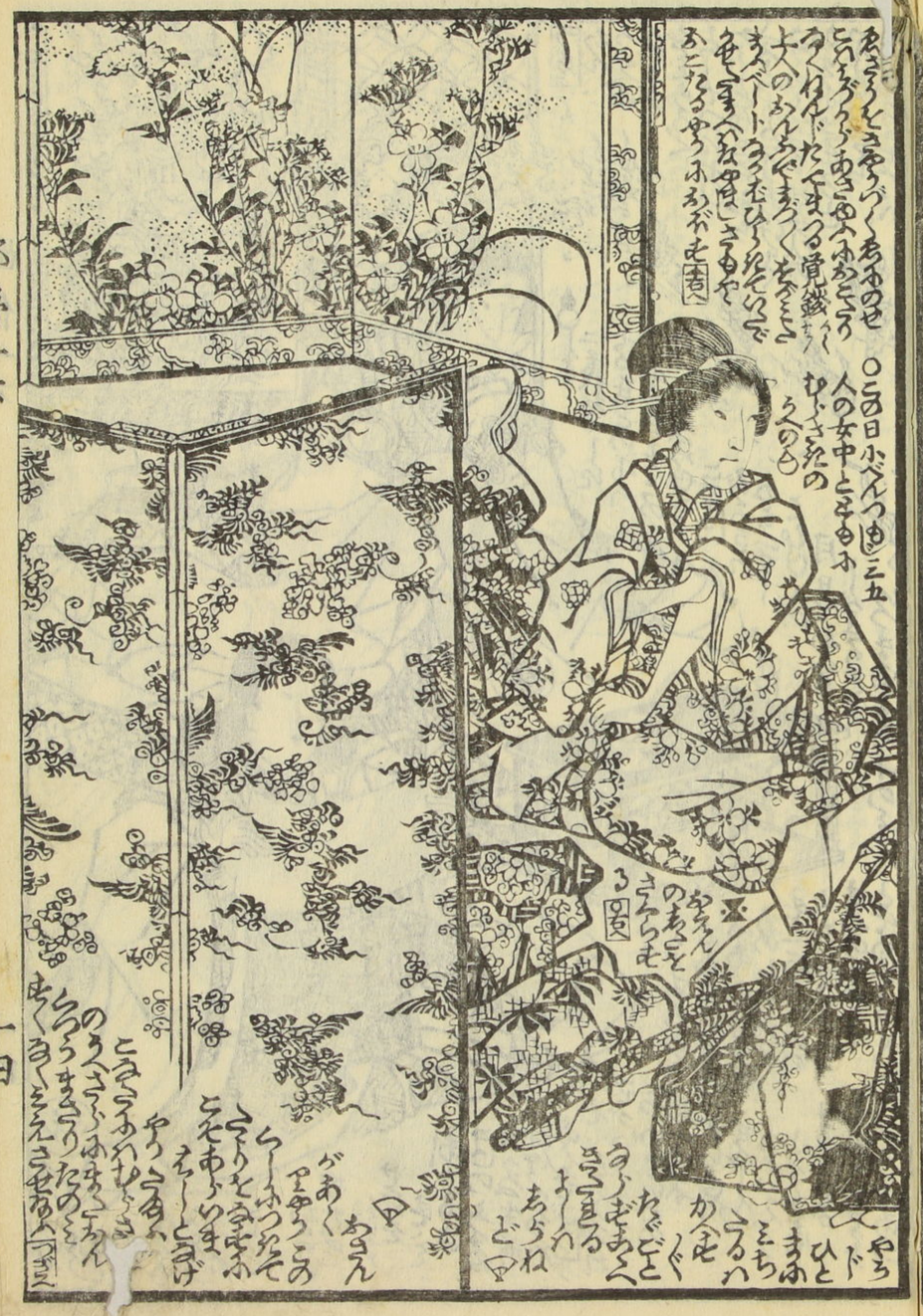
浮世の夢

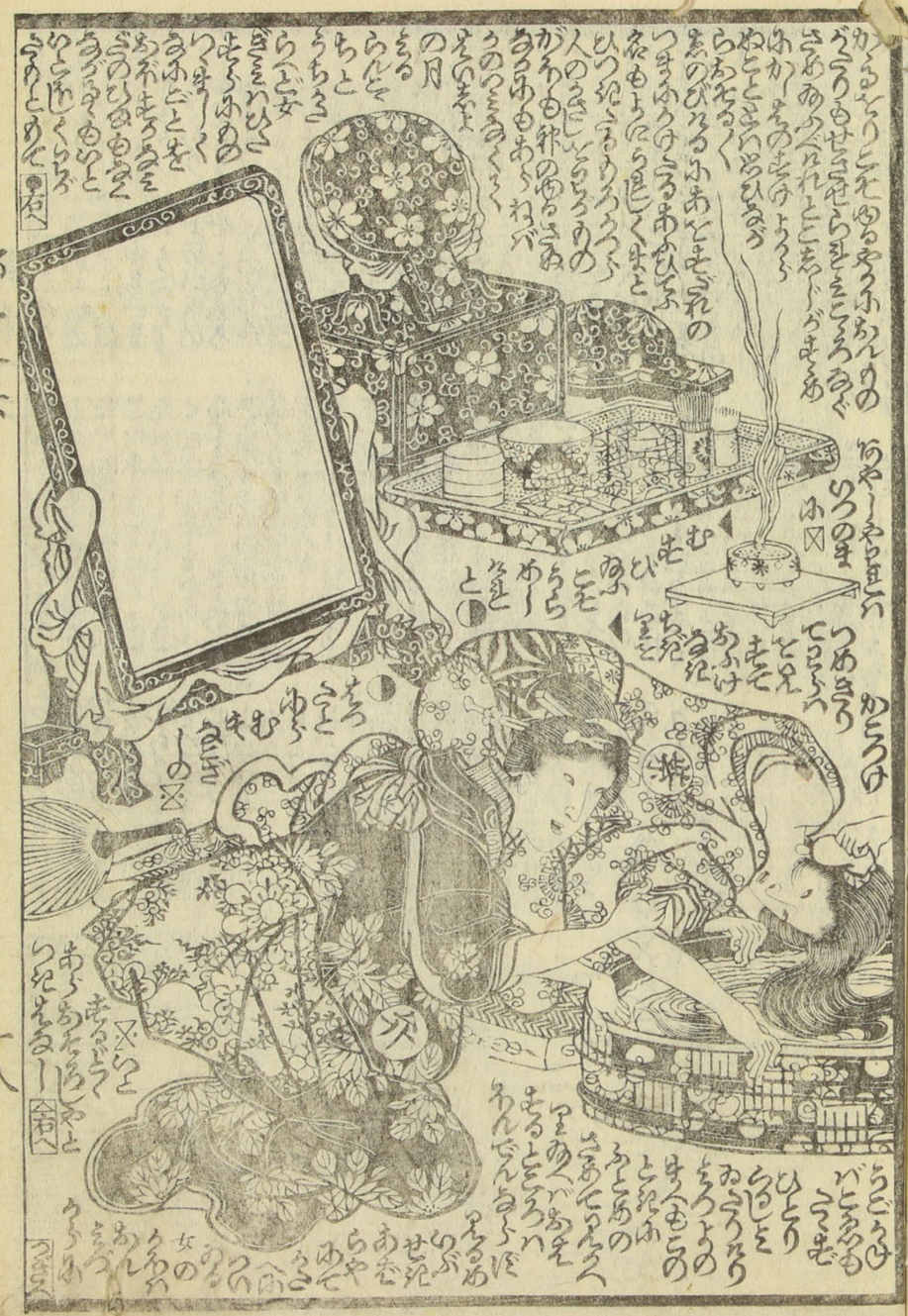
十六編の下

種秀作

國貞画

えひすやちゑん





紫の上

種秀作　國貞画圖